

Fight against the flu



飛沫感染
感染者のくしゃみやせきと一緒に飛び散る。その飛沫の中に大量のウイルスが含まれており、これをほかの人が吸うと感染する

接触感染
感染者が自分の鼻や口を触った手でドアノブなどを触り、このウイルスの付いたドアノブなどを別の人が触ると、感染していく

空気感染
空気中のウイルスを吸い込むと感染する。ただし、ウイルスは空気中ではすぐ力を失うので、空気感染の可能性は非常に低い

新型インフルエンザの感染経路は主に3つ

新型インフルエンザウイルスの感染経路を理解しておかないと、せっかくの防御策も意味がない。感染経路には左の3つがあるが、圧倒的に多いのは飛沫感染と接触感染。これを避けるのが対策のカギになる。飛沫感染を防ぐにはマスク、接触感染を防ぐには手指の消毒が効果的だ。空気感染するケースは極めて少なく、対策の優先順位は低めだ。

【マスク】N95は必要ない？ 密着性と装着感がカギ

新型インフルエンザの影響で最も売れているのがマスク。特に今秋で増えたのが、捕集効果の高いN95規格適合マスクだ。ほかにも顔との密着性を高めてマスクのすき間から飛沫を吸い込まないように工夫されたタイプや、長時間装着しても息苦しくならないよう、口の回りに空間を設けたタイプなど、機能性を高めたマスクが人気を集めている。

感染防止の最終結論
飛沫感染を防ぐだけでなく、一般的な不織布マスクでも実は効果はある。あえてN95規格のマスクを選ぶ必要はない。こうした性能よりも顔への密着性が重要だ。また長時間装着し続けるのだから、装着時の快適性も意識して選ぶべき

紙テープをはがして、顔に貼り付けるだけ。上下の区別もなく、扱いは簡単な



ウイルガード バイラマスク (アース製薬)
実勢価格3980円 (5枚入り)
医療用粘着剤で顔に貼り付ける斬新なマスク。顔への密着性は抜群で、N95よりもフィルターの性能が高いN99規格を採用する。特殊3Dフィルターを使い、装着時に息苦しくならない工夫もある。だが1枚800円程度と高いほか、粘着剤で化粧がはげると、使いづらい点も

ユニ・チャーム 超立体マスク ウイルスガード (ユニ・チャーム)
実勢価格798円 (5枚入り)
医療従事者の要望から生まれたマスク。顔によくフィットする形で、口の前に空間があって装着感も良い。「ウイルスガード」は、銀イオンを利用したファイバーフィルターで抗菌効果をプラス。今秋にはN95規格適合タイプ(右写真)も発売した

抗体マスク サージカルタイプ (クロシード)
実勢価格5880円 (25枚入り)
「抗体マスク」は京都府立大学の塚本康浩教授が発案し、空気清浄機にも利用されているダチョウ抗体フィルターで、捕集したウイルスを無力化するマスクだ。下の「サージカルタイプ」はブリーツ式。ほかに捕集効率を高めた立体型の「フォルテシモ」もある

パフロンマスク365 (大正製薬)
実勢価格398円 (3枚入り)
ブリーツ式の定番タイプだが、中央の樹脂製バーが口の前に空間を作るため、装着時の息苦しさが緩和される。ほおの部分の密着感はやや弱めだが、正面からくしゃみをされた際には飛沫を防げる



いるが、「ウイルスに有効」とうたう商品なら、消毒効果は期待できる。選ぶ際に注意したいのは使い勝手。というのも、手洗いが必要な消毒液では、ぬれた手をふく際にウイルスが再付着する危険性があるからだ。手洗後は、「使い捨てのペーパータオルなど清潔なもので手をふくのが原則」(西園寺氏)。それが面倒なら、水洗い不要の擦り込み式を選ぶといいだろう。擦り込み式タイプの「手ピカジェル」(健栄製薬)は8月に新型インフルエンザが大が報道されてからわずか2週間で、過去2年分の受注があつたほどの売れ行きだといふ。

マスクでは今秋、N95規格対応など的高機能タイプが続々と登場。だが実は、感染者の飛沫をブロックする程度なら、一般的な不織布マスクでもいい。「N95規格のマスクは装着テストを行ったうえで着けないと効果がないし、きちんと装着したものは息苦しくて1時間も着てられない」(西園寺氏)。フィルター性能が高くて、すき間があれば、そこからウイルスは侵入してしまふ。結果、十分な効果を出しきれなくなる。その点で画期的なのは、アース製薬が9月に発売した「ウイルスガード バイラマスク」。医療用の粘着剤で口の回りにマスクを直接貼り付けるため、最初にきちんと貼ってしまえば顔とのすき間は全くない。実際に着けてみると、息苦しさもあまり感じない。ただし1枚800円程度と、毎日使うには値が張る。その点、ユニ・チャームの「超立体マスク」は、一般的なブリーツ式より密着性が高く、価格も手ごろ。

【消毒液】消毒効果は大差なし 使い勝手で選び分ける

せっけんを手を洗うだけでも一定の効果はあるが、消毒液を使うほうが感染は防ぎやすい。多くのメーカーが消毒用のジェルやハンドソープを出しているが、選ぶべきなのはウイルスに有効と明記してあるか、60~80%の消毒用アルコール(エタノール)を含むタイプ。除菌とうたうだけではウイルスに効かないことも。

感染防止の最終結論
「ウイルスに有効」とうたう商品なら、消毒効果は期待できる。重要なのは消毒効果よりも、その使い勝手だ。洗い流すタイプの場合、使用後にウイルスが再付着しないよう、手を乾かす必要がある。擦り込み式のほうが利便性は高い

手ピカジェル<医薬部外品> (健栄製薬)
実勢価格980円 (300ml)



消毒用アルコールをジェル状にして、手荒れ防止の保護剤を加えたもの。擦り込み式で使用する手洗いが不要なので、使い勝手がいい。ただし手が汚れているときには、その前に手洗いが必要

イソジン泡ハンドウォッシュ (明治製薬)
実勢価格980円 (250ml)



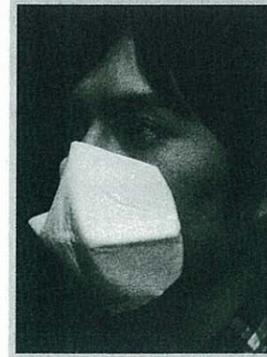
手術室でも使われるポビドンヨードが主成分。医薬部外品が主流の家庭用消毒液のなかで、これは医薬品だ。使用後は水で洗い流すため、ペーパータオルなどの清潔なもので手をふくべき

対新 抗型 グインズフルエンザ

本格流行で品切れ続出! どう使う? どう防ぐ?

新型インフルエンザが本格的な流行期に入り、国民の2割が感染すれば、ピーク時には1日に約76万人が発症すると予測されている。この状況を受け、感染対策グッズが飛ぶように売れている。ドラッグストアのセイジョーは「マスクは前年の20~30倍、体温計は3倍、ウェットティッシュは3倍も売上げが伸びた」と話す。数々の対策グッズが出るなか、感染を防ぐにはどんな商品を選び、どう使えばいいのか。インフルエンザの主な感染経路は上に示した通りだが、特にわかりにくく、対策を怠りがちなのが接触感染だ。

感染制御医で、情報サイト「オールアウト」で新型インフルエンザのガイドを務める医学博士の西園寺克氏は、「大切なのは手洗いと手指の消毒」と語る。この際、有効なのが消毒液だ。店頭にはさまざまな消毒液が並んで



注) N95・N99規格とは、NIOSH (米労働安全衛生研究所) が一定レベルの粒子を捕集する効果があると認定したもので、Nは耐油性がないこと、95、99は、それぞれ0.1~0.3µmの粒子を95%または99%以上捕集するという意味

【家電製品】ウイルスを抑制する可能性は高いが優先順位はほかより低め

高性能フィルターやイオンで空気中のウイルスを抑制する家電も売れている。特に人気が高いのは両機能を備えた加湿空気清浄機。最近ではイオン発生機能だけのものも増えてきた。イオンの種類などは各社で違うが、原理的にはさほど差はない。

感染防止の最終結論

空気中のウイルス抑制は、人が集まる密室では必要となるが、まだ感染者が出ていない家庭では、飛沫・接触感染でウイルスを持ち込まない対策のほうが重要。優先順位は低めだ

加湿空気清浄機

空気清浄とイオン発生でのウイルス抑制機能に、加湿機能を加えたタイプ。乾燥するとインフルエンザウイルスは活発になるといわれているため、加湿機能も空気感染対策に有効だろう



プラスマクラスター
空気清浄機
KC-Y65 (シャープ)
実勢価格5万4800円

ウイルスウォッシャー機能搭載
加湿空気清浄機
ABC-VWK14B (三洋電機)
実勢価格3万4800円

プラスマクラスター
イオン発生機
IG-B100 (シャープ)
予想実売価格2万9800円

イオン発生機

イオン発生機能に特化したタイプ。すでに自宅に加湿器や空気清浄機があり、プラスαを求めたい人や、設置場所などの問題で空気清浄機の導入に踏み切れない人には、選択肢の一つになるだろう

ナノイオン発生機
F-GME15
(パナソニック)
予想実売価格2万9800円



マスク用のあめから旅行用消毒液までインフルエンザ対策の周辺グッズが急激に増加

さまざまなアイデアグッズやニッチなニーズに応えた感染対策グッズも多い。今秋になって急激に増加したのが、携行しやすい体温計や消毒液など。またマスク装着時の不快感を解消するようなアイデアグッズも支持を得ている。

パーソナル化、携帯化に対応

JTBのハンドジェルは小型の擦り込み式消毒液。「こう見えても体温計」は、色の変化で体温がわかるカード式体温計。消毒液、体温計とも今や一家に1つから、1人1つ持つ時代だ

いつでも
どこでも
ハンドジェル
(JTB法人東京)
実勢価格840円



こう見えても体温計 (販売/素数)
実勢価格525円



マスク装着時の不快感を解消

「NEWマスク飴」は、強力なメントール味のあめをなめることで、「ノーズミント」はメントールやミントの香りの液体をマスクに数滴垂らすことで、マスク装着時の不快感を軽減する

NEWマスク飴
(ピアンタ)
実勢価格210円



ノーズミント
(素数)
実勢価格399円

業務用品の一般利用が増加

「クレベリン」は元来、二酸化塩素を使った業務用の消臭剤。これが一般家庭でも使われ始めている。空気中のウイルスを除去するジェルタイプは特に、人気が高く売れている

クレベリンシリーズ
(大幸薬品)
実勢価格1890円 (クレベリン スプレー 300ml)、980円 (クレベリン ミニスプレー 60ml)、1980円 (クレベリン ゲル 150g)



またフリーツ式でも、今回紹介したクロシードの「抗体マスク サージカルタイプ」はサイズが大きく、あごまで覆われるので安心感があつた。ただ、たとえ密着性が高くても、繰り返し使えばマスクに付着したウイルスが手に付き、接触感染の原因になる。こまめに使い捨てることも大切だ。部屋の換気を頻繁に行うことも新型コロナウイルス対策として推奨されている。空気感染の可能性は極めて低いといってもゼロではないし、飛沫がしばらく空気中を漂う可能性もある。今ではシャープのプラスマクラスターイオンのほか、パナソニックのナノイオンや三洋電機のウイルスウォッシャーなど、イオンを発生して空気中のウイルスを抑制する空気清浄機やイオン発生機なども増えている。これらはどれも、実験室の中では、ウイルスや飛沫の抑制機能がある程度確認済み。また上で紹介した空気清浄機はウイルスを通さないHEPAフィルターを搭載しており、この機能だけでもウイルス抑制には一定の効果が期待できる。ただ換気が重要になるのは、多くの人が集まる場所。一般家庭では、家族が感染していない限り、空気中にウイルスや飛沫が漂う可能性は低い。となると、まずはウイルスを家の中に持ち込まない対策を優先し、そのうえで対策の選択肢に加えるのがベストだ。最近ではほかにも、マスク装着時の不快感を軽減するグッズや、持ち運びに適した小型の体温計、消毒液なども売られている。これらを賢く使い分け、一層効果的な対抗策に役立てたい。